労働組合。その過去・現在・未来

佐藤塾　2020.7

（赤字は宮前忠夫訳による補正2022.9）

「労働組合－その過去・現在・未来」は国際労働者協会第1回大会（1866年第１インターナショナル）において、マルクスが執筆した11項目の「指針」の一節です。「協会」には労働者の政治団体、労働組合、文化団体、協同組合などが参加していましたが、いまだ労働者政党はつくられていません。

「指針」は各国の労働者階級の代表により採択されました。それは、歴史上はじめて、労働組合運動の基本的な発展方向とそれが果たすべき歴史的課題についての原則的な方針の確立でした。

以降、150余年が経過しました。労働組合運動の歴史と現実を一知半解に語ることは避けなければなりません。

この学習では、❶マルクスが強調している労働組合のそもそもの基本的な概念を学びます。いわば活動家としての「品格」を高めていく努力です。

次に、❷私の経験則上、感じている活動の「手がかり」を投げかけています。これは

「知は力」の押し付けです。

1. その過去

資本は集積された社会的支配力（social　force）であるの対し、労働者が処理できるのは、自分の労働力だけである。したがって、資本と労働力のあいだの契約は、けっして公正な（quittable）条件にもとづいて結ばれることはありえない。それは、一方の側に生活および労働の物質的手段の所有を、反対の側に生きている生産力を対置している社会という意味において決して公正ではありえない。

論点　資本と労働力あいだの契約は、けっして公正な条件にもとづいて結ばれることはありえない。

❐資本とは、単純にお金ではありません。資本は貨幣、生産手段と労働力、商品とたえずその形態を変えて存在します。資本は自己増殖する価値ですが、深追いしません。

❐労働者とは、「生産手段を持たず、労働力を売る以外に生活の道がない人」のこと。労

働力は一つの商品です。

「公正な」は、fireではなく、つり合いのとれたという意味のquittableである。

労働者のもつ唯一の社会的な力（socialpwer）はその数の力はであるが、数の力は不団結によって挫（くじ）かれる。労働者の不団結は、労働者自身のあいだの避けられない競争によって生みだされ、持続される。

論点　労働者のもつ唯一の力は数の多さである。同時に、避けがたい競争が、労働者の不団結を助長し、継続している。

❐資本は集まって積み重なった力（social force）である。

❐労働力はworking force。人数の力は、労働者の不団結によってくじかれている。

最初、職別組合は、この競争をなくすかすくなくとも制限して、せめてたんなる奴隷よりはましな状態に労働者を引き上げるような契約条件をたたかいとろうという労働者の自然発生的な努力から生まれた。だから、職別組合の当面の目的は、日常の生活をみたすこと、資本のたえまない侵害を防止する手段となることに、限られていた。一言でいえば、賃金と労働時間の問題に限られていた。

論点　労働組合は自然発生的に生まれた。当面の目的は、労働者の「日々の貧困」を何とかすること、資本の絶え間ない侵害を防ぐことにあった。

❐「剰余価値のつくられ方、資本主義の搾取のしくみ」

　 kumiaizukuri.jimdo.com

❏「公正な」はfairではなく、「つり合いのとれた」という意味である。

職別組合のこのような活動は正当であるばかりか、必要でもある。現在の生産のしくみがつづくかぎり、この活動なしにはすますことはできない。それどころか、この活動は、あらゆる国に職別組合を結成し、それを結合することによって普遍化されなければならない。

論点　労働組合の活動の必然性－合法則的である。積極的な位置付けた

　正当である。

　必要である。

　なしに済ますことはできない。

❐経済闘争－搾取の強化にたいする抵抗

❐政治闘争－資本に対する社会的規制

❐イデオロギー（思想）闘争－労働者の知的成熟

イデオロギーとは、政治的・宗教的・芸術的・哲学的その他の社会的意識の体系のことである。階級制をもち、対立的な階級的イデオロギーとして現れる。

❐労働組合は、世界に普遍化されなければならない。

他方では、労働組合は、みずからそれを自覚せずに、労働者階級の組織化の中心となってきた。それはちょうど中世の都市やコミューン〔自治行政区〕が中間階級〔ブルジョ アジー〕の組織化の中心となったのと同じである。

論点　労働組合は労働者の組織化の中心（center）の位置にある。

❐労働者は労働組合よって成長し発展する言っている。

職別組合は、資本と労働のあいだのゲリラ戦にとって必要であるとすれば、賃労働と資本支配との制度そのものを廃止するための組織された働き手としては、さらにいっそう重要である。

論点　賃労働の廃止、資本主義制度そのものを廃止する主体としての重要性。（agency－道具では不適切

❐資本と労働のあいだのゲリラ戦。

（guerilla fight）「小競り合い」の語感が適切だ。

❐賃金闘争の意義とその限界

❶労働者は生活を維持し、守っていくため

必ずたたかわなければならない。資本主義社会が続く限り。

❷労働者は日常の切実な要求にもとづいて

結集する。資本とのたたかいを通じて、階

級的自覚をかめていく。

❸賃金闘争はあくまでも搾取の結果にたいするたたかいである。

（ロ）その現在

職別組合は、資本にたいする局地的な、当面の闘争にあまりにも没頭しきってきたため、賃金奴隷制そのものに反対して行動する自分の力をまだ十分に理解していない。このため、職別組合は、一般的な社会運動や政治運動からあまりにも遠ざかっていた。

論点　労働組合の歴史的位置

現存の制度の諸結果に対するゲリラ戦だけに専念し、それと同時に現存の制度をかえようとはせず、その組織された力を労働者階級の終局的開放すなわち、賃金制度の最終的廃止のためのテコとして使うことをしないならば、それは全面的に失敗する。（「賃金、価格、利潤」）

だが、最近になって、労働組合は、自分の偉大な歴史的使命に~~（いくらか）~~目ざめつつあるようにみえる。それは、たとえば、イギリスの労働組合が近年の政治運動に参加していること、合衆国の職別組合が自分の役割についていっそうひろい見解をいだいていること、さらに最近シェフィールドでひらかれた巨大な職別組合代表者会議が次のような決議をおこなったことからみて、明らかである。

❐産業革命の終期、1830年代初頭のイギリスでは，富裕な産業資本家層の対極に貧しいプロレタリアートが形成された。

❐イギリスの職業別労働組合。同一職業の熟練工中心の狭いわくのなかでの組織であった。加入条件もきびしく制限し、賃金や労働条件の改善だけを目的とした運動を展開していた。

❐アメリカで南北戦争はじまる。労働組合が奴隷解放を支持した。1886年、同年、5月1日、８時間労働制を要求してストライキ・デモ行進をおこなった。

❐シェフィールドで「労働組合代表者会議」20万人を代表する138人が参加。彼らは階級として結束し，労働組合や協同組合をつくり，チャーチスト（憲章）動で普通選挙を要求するまでに成長していた。

❐実は、マルクス以前にも共産主義的な思想は存在した。空想的的社会主義者である。彼らは資本主義が生み出す労働者の過酷な生活状態に対する先駆的な労働者の抗議と革命的行動を反映し、資本主義と私的所有制にするどい批判と未来社会への天才的な予見を示していた。

　サンシモン

　フーリェ

　ロバート・オウェン

❐第1インターナショナルで社会主義は「空想」から「科学」へと深化し、「過去・現在・未来」は、労働組合運動の新たな展望を切り開く歴史的な転機となったのである。

本会議は、すべての国の労働者を一つの共通の兄弟のきずなで結びつけようとする国際協会の努力を高く高く評価し、全労働者階級の進歩と繁栄にとって協会が必要欠くべからざるものであることを確信して、本会議に代表を送った各組合に、国際協会への加盟を心から勧告する。

「万国の労働者よ　団結せよ」（『共産党宣言』1848年）

**（ハ）その未来**

いまや労働組合は、その当初の目的以外に、労働者階級の完全な解放という遠大な事業のために、労働者階級の組織化の中心として意識的に行動することを学ばなければならない。労働組合は，この方向をめざすあらゆる社会運動と政治運動を支援しなければならない。

❐工業の発展とともに、労働者は数を増し、大きな集団に結集され、自分たちの力を感じるようになった。機械が各人の労働の差異を消し去っていた。

集団的に労働力の「安売り」はしない。ストライキの時だけでなく、賃金を維持するため同盟し、恒常的な労働組合に到達した。

**１．者階級の組織化の中心となる。**

**→意識的に行動することを学ばなければならない。**

**・労働組合の階級的・民主的強化**

**２．労働者階級の開放をめざす。**

**→社会運動と政治運動を支援しなければならない。**

**・労働者政党との協力・共同**

**・大衆団体との共闘・連携**

みずから全労働者階級の戦士、代表者をもって自認し、そうしたものとして行動している以上、労働組合は、非組合員を組合に参加させることに成功しなければならない。

３．非組合**員を→組合に参加させることを怠ることはできない。**

**・未組織労働者の組織化**

労働組合は、異常に不利な環境のために無力化されている農業労働者のような､賃金のもっとも低い業種の労働者の利益を細心にはからなければならない。

**4. 低賃金労働者の利益を擁護する。**

**→細心にはからなければならない。**

・労働者の連帯

労働組合の努力は狭い、利己的なものとは無縁であり、ふみにじられた幾百万の大衆の解放を目標とするものだということを、世界中の人々に確信させなければならない。

5．労働組合の努力は、利己的なものではなく、大衆を開放するものである。

　→一般の人に納得させなければならない。

・労働組合の大義、社会的合意

了